リフォームをめぐる人々 22

月1回掲載

三井のリフォーム 住生活研究所 所長　西田恭子

夫にとってのリタイア後の台所

「台所のリフォームだけなのですが…」と、相談にこられた方がいた。

台所だけという遠慮がちな物言いであったが、夫のリタイア後の台所はたいへん重要だ。

朝晩二食、あるいは朝食だけで夕食は食べないことが多かった生活から、三食二人分作り続ける生活への変化は、妻にとっては恐怖に近いものがあるようだ。だがそんなに恐れることはないと、私は高をくくっている。

この方の夫も「男の料理教室」に通っていた。ただ洗い方に徹していたらしく、家で食事を作ることは全くないという。

よく聞けばリタイア後は、この教室通いで磨いたスキルが役立ち、食事の後の洗い物は夫の役割と、分担が成立した。

キッチンを改装するにあたって、今まであった食器洗い機は不要だという。なぜなら「食器洗い機代わりの夫がいますから」と、奥様はうれしそうだ。

設計サイドでもこれはありがたい。IHクッキングヒーターにしたいとおっしゃる奥様の希望をかなえるための電気の専用回路を、食器洗い機をやめることで確保できる。

今回はキッチンの奥にあった冷蔵庫も、食堂から近い位置に変更した。調理に使う以外のものは、ビールやドレッシングなど、それぞれ自分で冷蔵庫から取り出せるようになった。

旦那様の中には、昼間は出かけて外で食べると決めている方もいた。夫婦で外食も素敵だなと思ったが、どうやらそうではないらしい。奥様が付いてくるもよし、こないもよし、自分は外に向かって行動開始するとのことだった。

自立が成立しているパターンといえる。

どうやら妻が心配する前に、夫はとっくにリタイア後の暮らしをイメージして、計画をたてているようだ。

今回、キッチン改装の必要性を感じていない夫は、打ち合わせにも顔を出さなかった。

しかし、竣工後お伺いすると、わざわざ二階から降りてこられて、「大変良かったです。ありがとう！」とにこやかにおっしゃってくださった。

どうやらここまで使いやすくなるとは、思っていなかったようだ。

夫が使うことになる、食器を拭くための布巾掛けポールが、二本あるのを喜んでいらっしゃるのかもしれない。

だがリタイア後の暮らしのイメージ作りが、まだまだあやしい夫もいる。

そんな気配を感じている妻は、「お願いだから、毎回食事時間になると、お箸を持って『ご飯まだ?』と食卓テーブルに座っている夫にだけにはならないでね」と釘をさしていた。

西田恭子氏のプロフィール＝一級建築士。「三井のリフォーム」で設計を手がけ二五年。暮らしの創造に貢献する「三井のリフォーム 住生活研究所」の所長に就任。新聞・雑誌・書籍の執筆、各種セミナーで講演を行う。文化女子大学非常勤講師。日本女子大学住居学科卒。